僕が彼の主に最も近付くのは、彼がサジダ（平伏礼）している時である。だから祈願を沢山するのだ。

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）が預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）から伝えるところによれば、彼はこう言った：「僕が彼の主に最も
近付くのは、彼がサジダ（平伏礼）している時である。だから祈願を沢山するのだ。」 [真正] [ムスリムの伝承]

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）が預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）から伝えるところによれば、彼は言った：「僕が彼の主に最も近付くのは、彼がサジダ（平伏礼）している時である。」人間はサジダする時、身体器官の中で最も高貴な部分を、足が通る場所につける。また、身体の中で最も高い位置にある部分である顔を、身体で最も低い位置である足の高さまで落とす。こうして偉大なアッラーに屈従し、身を低め、謙虚になって、顔も足も同じ高さにするのである。サジダをする時に僕が主に最も近づくというのは、こういう所以である。預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は、サジダの状態にある時に、沢山祈願をすることを命じた。こうしてアッラーに対する謙虚さが、その中に状態と言葉が揃った形で実現するのである。ゆえに人間はサジダした際、「スブハーナ・ラッビヤ・ル＝アァラー（至高のわが主に称えあれ）」と唱える。そこには、アッラーこそがその本質と属性において至高のお方であり、アッラーの荘厳さと偉大さに比べれば、人間は低く劣った存在であるという示唆が含まれている。

http://www.sunnah.global/hadeeth/ja/show/5382